

中学校区におけるめざす子ども像 〈時を守り 場を清め 礼を正す〉 未来の社会の創り手となるために、「主体的に考え・行動できる子ども」(地域連携)		堺市立榎小学校 校長 川人慎二
令和6年度 重点目標 「心地よい学びがあふれる学校づくり」 ・学び多い、心地のよい授業となるよう、授業内容・方法を研鑽する。授業のUD化を進める。 ・居心地のよい教室環境、よりよい友だち関係の構築を心がけ、心地よい教室づくりを進める。 ・心地のよい職場となるよう、風通しのよい環境づくりに努め、互いの時間を尊重しあう。		

確かな学びの現状 ・研究教科として国語を取り上げ、実践を通した研修を進めた。子どもたち自身が国語の学習内容のつながりを意識しながら学習し、着実に力をつけている。 ・読書について、学年に応じためざす姿を設定し、図書室の整備、子どもたちへの指導を行った結果として、「読書が好きだ」という子どもが増え、図書館の使用も増えている。 ・主体的に学習する姿が見られる一方、それが「国語が好きだ」「算数が好きだ」という教科への愛好的態度にはつながっていない。				豊かな心・健やかな体の現状 ・道徳、人権の学習、またさまざまな取組を系統的に実施できた成果として、自分や友だちのよさを認識し、違いを認め合おうとする学級や学年の土台ができあがってきている。 ・たてわり活動を積極的に取り入れていることで、下級生に対する親切心や、上級生に対するあこがれの気持ちが育ってきている。 ・ここ数年、ウイルス感染防止のためのさまざまな形での運動制限や、校舎増築にかかわり運動場がせまくなっていったことにより、「運動が好きだ」と考える児童の割合が低下している。		
---	--	--	--	---	--	--

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期		進捗確認 (～11月)	達成状況(年度末)					
									自己評価	学校関係者評価				
確かな学び	学ぶ環境	図書館を活用し、進んで読書する子を育てる。 ユニバーサルデザインの観点を大切にした授業を行う。	図書館を活用し、進んで読書する。	低学年「楽しんで読書している」、中学年「幅広く読書している」高学年「進んで読書している」の項目で、肯定評価80パーセント以上	アンケート	学期初め	○	図書館活用については、週に一時間各学級で図書の時間を取り、読書に親しむようにしている。また、調べ学習や並行読書などの際には、ミニ図書館として図書ボックスを学年に貸し出している。 UDについては、複スタンダードとして、学習や環境整備の統一を進めている。また、中学校区で統一したものにできないかと検討している。	○	低・中学年は8割以上の児童が読書に肯定的に取り組むことができているが、高学年では7割にとどまっている。時間の確保だけではなく、児童の読書活動が豊かになるよう、本の紹介の工夫やビブリオバトル等、読書活動推進の取組を進めていく。 ○ 複UDスタンダードを研修委員会を中心に策定し、中学校とも検討を進めた。学校で共通した指導をおこなえるよう、次年度に向け教員に周知と指導の徹底をおこなっていく。	○	PTA図書委員会、図書館司書と連携し、子どもたちが興味をもって読書に取り組む環境づくりに取り組んでいるのは、現代の子どもたちにとってたいへんいい取り組みである。今後も続けていってほしい。 ○ すべての子どもたちが安心して過ごすことができる環境を、ユニバーサルデザインとして進めている取り組みも今後さらに必要性が出てくるものだと考えている。中学校も巻き込んでさらに推進してほしい。		
			複UDスタンダードをもとにした授業をする	「複UDスタンダードを意識して、授業を行っている」の項目で肯定評価80パーセント以上	学校教育アンケート(教職員)	学期末	○							
	学ぶ意欲	主体的に聴きあい、進んで学習に取り組む子どもを育てる。そのため教材研究を行い、手立てを考える。	子どもたちが互いの意見を聴き合い、進んで学習に取り組んでいる。	「国語の物語の授業で、友だちとの学び合いを楽しんでいる」の項目で肯定評価80パーセント以上	アンケート	学期初め	○		○	各学年、ペア交流やグループ交流を中心に授業を行ってきたことにより、自分の意見がなかなか出てない児童も自分の意見に自信をもつことができるようになり、友だちと学び合う姿勢が出てきた。意見交流に意欲的な子どもたちが増えてきている。 ○ 自分と友だちの考えを比べながら発表したり、振り返りに友だちの名前や考えを書いたりする姿も見られるようになってきた。「ふだんからなぜだろう、調べてみたいと思うことがある」と答えた児童は81.9%で子どもたちの学ぶ意欲は高まりつつある。 ○ 物語文における問いについて考える授業を続けたことで、一問一答でなく、柔軟な発想で考えることができる児童が増えてきた。全文シートを活用するなど授業の工夫を研修を通して進めたことにより、自分たちで自然に考え交流を始める姿が見られるようになった。アンケートより「読み味わうことが楽しい」と肯定的に回答した児童が8割を超えている。「問いをもつ」ことの研修を通し、教師の役割について学校全体で共有することができた。今後の授業改善にいかし、さらに深めていく。	○	「子どもたちが問いをもち、自分たちでその解決を進める授業」について、その時々の子どもの実態や求められるニーズに合わせ、教育活動を進めていることが分かった。子どもたちから出てくる「問い」が、それぞれの単元で学ぶべき内容のものとなっているのか、常に振り返りながら進めていってほしい。 ○ 授業だけで完結するものでもないとする。子どもたちが普段感じている何気ない疑問や、不思議に思ったことをみんなで共有し、みんなで考えるような学級の雰囲気づくりも進めてほしい。		
			全ての教科において、子どもたちが主体的に取り組める手立てを考え、授業づくりを行う。	「子どもたちが主体的に取り組むことができるような手立てを考えて、授業づくりを行っている」の項目で肯定評価80パーセント以上	学校教育アンケート(教職員)	学期末	○							
	深い学び	国語科を中心として研修を進め、学習でのつながりを意識して授業を行う。また、言葉による見方・考え方のできる子を育成することをめざす。	子どもたちが、国語科においての学習のつながりを実感する。	「国語の物語を読むときに、これまでに習ったことをいかして、考えることができる」の項目で肯定評価80パーセント以上	アンケート	学期初め	○		○					
			言葉による見方・考え方を生かして、物語で感じたことを自分の言葉で伝え合うことができる子を育成する。	「国語の授業で、物語を読み味わうことができる」の項目で肯定評価80パーセント以上	アンケート	学期初め	○			○				
豊かな心・健やかな体	人との豊かなつながり	一人一人に安心できる居場所があり、人とのつながりの心地よさを感じ、大切にしようとする子どもを育てる。	人権教育、道徳教育を計画的・効果的に推進し、豊かな心を育成する。	「自分にはいいところがあると思う」の項目で肯定評価80パーセント以上	学校教育アンケート	学期末	○	人権教育の推進については、様々な人権課題に触れるために年間計画を作成し、学年で取り組むように推進している。 支援交流会を夏休みと2学期に行い、関わりを持つことでお互いの理解を深めようとしている。	○	自尊感情や仲間意識を高めるために、今年度も学期ごとに詩を書く取り組みから、自身や他者にじっくりと目を向ける機会を設けた。アンケートでは、自尊感情や仲間意識の積み上げも見られ、80%以上が肯定的評価だった。また、SNSトラブルの増加に対し、自分や相手の心や立場が互いに守られるよう、情報モラルの学習を全学年で行った。自分も相手も必要な存在であり、大切だと感じ取れる人権教育活動を引き続き検討してきたい。 ○ アンケートの結果より学年が上がるにつれて学校に行くことに不安を感じている児童が多くみられた。「(いじめに関して)相談することができますか」のアンケートでは全体の76.4%の児童が肯定的な回答をした。一定の人数が相談できない、しにくいと感じていることに対し、いじめアンケートだけではなく、担任に加え様々な教員が一人の児童に関わることができるようなシステムの構築を進める。	○	学校独自の不登校対策に一定の効果が表れている件について、非常に喜ばしいことと捉えている。来年度は三国中学校群とともに教育活動が本格化する。不登校対応においてもぜひ連携をとり、小中での成果をあげてほしい。 ○ 今年度取り組んだSNSにかかわる人権課題は今日の課題として、自分も周りの人も守る大切な学習であると思う。今年度だけの取組で終わることなく継続的に進めてほしい。 ○ 給食の残食率はどうか、子どもたちがゆとりをもって給食時間を過ごし、食をしっかりと楽しめるような環境づくりを進めてほしい。 ○ 避難訓練を含む防災にかかわる学習にも今後一層力を入れて取り組んでほしい。		
			支援学級や異学年の交流を通して、立場の違う子との関わり方を学び、思いやりの心を育てる。	低・中学年「相手の気持ちを考えて行動している」高学年「自分とかわりのある人の気持ちを考えて行動している」、全学年「一人ひとり違いがあることを認めたいと思う」の項目で肯定評価が80パーセント以上	学校教育アンケート	学期末	○			○				
	正しく判断し行動する	一人ひとりを尊重し、個性の伸長をはかり、社会性を高める。正しく判断し、「生きる力」や「温かい人間関係づくり」ができる子を育成する。	いじめを見つけた時に自分にできることを考え、助けたいという思いを持つことができる。	いじめに関するアンケートを取り、「助けたと思う」という項目で肯定評価80パーセント以上	学校生活アンケート	学期末	○	学期ごとに行っている「いじめアンケート」を集計し、実態把握を行っている。 たてわり活動を毎月一回程度行うことで異学年での交流を持つようにしている。また、たてわり活動の計画を6年生が主体となって行うことで、やりがいなどにつながると考えている。	○	1. 2学期に行っている「げんきアップカード」から自分の睡眠について考える機会を持つようにしている。身体測定時、保健の教諭より、話をしている。 ○ 体力向上に取り組むために、体育の授業の最初に折り返し運動を行うように提案している。	○	「げんきアップカードなどから、自分の睡眠について考えることができた。」では80%以上の肯定率を、「朝ご飯を食べている」の項目では90%近くの児童が肯定的に回答することができ、睡眠・朝食ともに児童や保護者の意識を高く持つことができていた。 ○ 体力テストでは50m走では高学年男子で昨年度より記録の向上が見られ、反復横跳びではすべての学年の女子で記録の向上が見られた。通年で折り返し運動に取り組むことができた。	○	6年生は連合運動会を通して大きく成長したと感じている。連合音楽会、その他、さまざまな行事がもつ教育力は大きい。みんなで何かをやり遂げる経験は貴重である。
			たてわり活動に主体的に取り組む、異学年の子との関わり方を学ぶ。	「たてわり活動を楽しみにしている」、高学年「たてわり活動で、企画や運営をすることによりやりがいを感じる」の項目で肯定評価が80パーセント以上	学校教育アンケート	学期末	○			○				
	心と体の調和	自己の心身について理解し、よりよく向上させようとする態度を養う。	健康な体を作るための生活習慣を考え、実践する子を育成する。	「げんきアップカードなどから、自分の睡眠について考えることができた。」の項目で肯定評価が75パーセント以上、「朝ご飯を食べている」の項目で肯定評価が80パーセント以上	学校教育アンケート	学期末	○			○				
			体力向上の取り組みを計画的に実施する。	昨年度の体力テストの結果から向上がみられるかで判断	体力テスト	学期末	○			○				
地域協働	安全・安心な学校づくり	保護者、地域と学校とが協働して、開かれた学校づくりを進める。	学校ホームページ、各種便りを発行し、本校の教育活動の発信に努める。	ホームページの更新状況、各種便りの発行状況	ホームページ閲覧数 自己評価	学期末	○	学校HPの掲載写真等を増やし、学校の様子を発信している。 地域のお祭り等に教職員が計画的に参加している。	○	毎日のホームページ更新を平均20件以上行うことができ、学校の情報を保護者・地域に発信することができた。閲覧数も1日300件を超えており、多くの人に閲覧していただけている。 ○ 情報発信ではアプリを活用した一斉連絡を活用し、即時に必要な情報を保護者に伝えることができ、ペーパーレス化も進めることができた。	○	ホームページは、学校全体の様子や各お子様の様子がよくわかり、いい取り組みである。日曜参観後に行った「複つつフェスタ」での先生たちの生き生きとした姿はとてもよかった。教育活動外でのかわりの大切さを感じた。		
			地域行事に教職員が計画的に参加する。	各教職員が学期に1回程度参加する	参加状況	学期末	○			○				

校長より(年度末) 重点テーマとして示してきた「心地よい学びあふれる学校づくり」を職員一人一人が意識し、チームとして子どもたちの主体性を育む教育活動を進められた。数値に表れない部分においても、実感できる場面が多い。例えば、教室での子どもたちの生き生きと学習に取り組む姿、「おはよう」と元気よく登校してくる子どもたちの姿、低学年の児童の様子を気遣いながら過す廊下や運動場での高学年の姿などの子どもたちの姿や、不登校傾向にある児童への声かけ、さまざまな事象に迅速にチームで対応しようとする教職員の姿などである。また、本校の特筆すべき特徴の一つでもあるPTA活動については、今年度さらにパワーアップした実感がある。子どもや学校のことを第一に考え、熱心にそれぞれの役割を果たしてくださった。子ども、保護者、教職員にとってさらに「心地よさ」を感じられる学校となつたと考えている。				学校関係者評価者から(年度末) PTAの支えのもと、学校重点テーマ「心地よい学びあふれる学校づくり」をいい形で進められている。一方、数値での評価については、注意が必要である。同じ90%であっても、その他の10%の児童がどのような状況であるのかは教職員がしっかりとらえておく必要がある。肌感覚も大切にほしい。来年度からは、学校群における教育活動が本格化する。いい面を伸ばすとともに、長きにわたり課題となっている不登校についてもさまざまな形で連携し、中学校群としての成果をあげてほしい。そのために、9年間を見通した教育計画、小中間の教職員、児童生徒の交流を密にしていってほしい。		
---	--	--	--	--	--	--